

発刊によせて

育成林業に関する試験研究が、他の分野のものに比較して、長期間にわたるものであり、このことが研究の能率を高めるうえで、大きな障害となっていることは、いうまでもない。

それゆえに、研究期間の短縮化をはかるため、研究手法や施設などの面について、いろいろな努力がはらわれているが、現状においては、まだまだ不十分な点が多い。したがって一応の研究成果をもりこむことを前提として、学術的な評価にも耐えるような報告をまとめあげることは、林業の部門においては、とくに容易なことではない。

従来、当场においては研究成果の刊行物として、光珠内林木育種場報告をひきついで北海道林業試験場報告が第6号まで印刷されている。北海道における林業技術の向上発展を目的として、実用的な見地から開発された技術の指導普及を行なっていくためには、配付対象その他から考えても、試験場報告のみでは、はなはだ不十分であると考えられる。

このような趣旨から、今回あらたに、光珠内季報を発刊することにした。これには、試験研究の速報的なもの、中間報告的なもの、新技術の解説的なもの、資料的なもの、その他試験場報告に登載するまでにいたらない、いろいろな形と内容をもったものが、含まれることとなるが、ねらいとするところは、直接林業技術者にひろく役だてることであって、いわゆる学術報告を目的としたものではない。

この種の刊行物を定期的に発行するためには、部内体制の不備について、いささかの危惧を感じるものであるが、やらなければならないことはやるべきである。との場員一同の意思を尊重して、刊行にふみきった次第である。恒久的につづけていくための努力は今後にもたなければならない。

大方の御批判をえて、御指導をたまわることにより、さらに内容の適正を期していきたい。

1969年6月

北海道立林業試験場長

阿 部 豊